

基調講演「おでかけを守る地域公共交通の戦略的マネジメント」 要旨

福島大学 うつくしまふくしま未来支援センター
特任准教授 吉田 樹 氏

- ・はじめに、今日皆様に考えていただきたいものが3点あります。1つ目は、地域の公共交通はなぜ必要なのか、2つ目が「地域公共交通は使われない」が当たり前なのか、3つ目は責任を押しつけ合っていないかということです。

【地方公共交通はなぜ衰退したのか？】

- ・まず、なぜバス離れが続いていくのかというと、マイカーというライバルが出てきたことが一つの要因ではあるが、バスはマイカーに対抗すべく、利便性の向上を図ったのではなく、「廃止」「減便」「値上げ」により、相対的に魅力を低下させて行ったことが一つ大きな背景にある。
- ・また、2002年にバス事業規制緩和が行われ、今まで民間企業であるバス会社がかなりの部分を担っていた地域公共交通をどうしていくのかというマネジメントの責務が市町村あるいは都道府県へ移ったが、多くの自治体がそうした事実気付かないまま、今日に至っているというのが大きな課題ではないかと思っている。
- ・東北では赤字でなくとも運転手不足で路線が存続できないところが出始めている。事業者だけでリスクを背負うのでは、地域公共交通を守れなくなっている。こうした中で、地域の公共交通は誰が支えるのかというと、行政・事業者・市の3者の責任分担が明確になっていないから、誰も守る役者になっていないのです。
- ・なぜバスが使われないかというと、1つ目に、調べたけど使えない、その次に、調べ方が分からなくて使えない、3つ目に、そもそも公共交通の利用なんて選択肢にない、という3つのミスマッチがあると思う。どうやってこれらを変えることができるのかというところを、私たちが今考えなければいけないし、行動しなければいけないことです。

【地域公共交通は、なぜ必要か？】

- ・では、なぜ地域の公共交通が必要なのでしょう。1つ目には、市民のおでかけを守るということ、バスがはしらない地域で車がなければ徒歩での移動となるが、その歩いて行く先にスーパーや病院が無い地域であれば、そこに住み続けることはできない。
- ・2つ目には、車に依存したライフスタイルの限界ということ、環境という部分での話だけでなく、人と人が交流する機会が失われるということもある。バスに乗れば、その地域の人たちがどんな生活を送っていて、どんな表情をしているか見えますが、マイカーではこれが難しい。
- ・3つ目には、まちなかの賑わいを演出するということ、賑やかさは車の数ではなく、歩いている人の数で判断される。公共交通では停留所で人が待つし、そこからお店まで歩きますが、車では行きたい場所の近くに駐車して殆ど歩きません。

【地域公共交通戦略が目指すもの】

- ・そんな中で、公共交通基本法が考えられてきました。30年前にできたフランスの国内交通基本法では、交通というのは経済・社会・環境に役立たなければいけないということを理念として謳われています。
- ・これを、今日テーマとしている公共交通というものに落とし込むとすれば、地域公共交通が交流を支え、定住に結び付くということです。なので、地域の公共交通というのは、民間の一企業の営利事業としての役割ではなく、公益事業として考えていかなければならない。
- ・では、具体的にどのような視点が求められるのかというと、一つ目が「おでかけ」の品質保証と

いう考え方で、公共交通がたくさん運行されていても、通学・通勤・通院・買い物の生活に必要な場面で使えなければ意味はなく、公共交通でどのようにおでかけが出来る範囲を広げて行くか、考える必要がある。

- ・二つ目に「地域間幹線」の品質保証として、市をまたがる長距離バスは市内で完結するコミュニティバスと乗り継ぎがうまくいかないと使われません。コミュニティバスは市町村が、長距離バスは県等が考えるとなった場合、路線を下手にかぶせたり、お互いに税金を出し合うという非効率な路線が出来てしまうので一体的に議論する必要がある。
- ・三つ目が「幹線軸」の品質保証ということで、一部区間に集中する路線を再編し、運行間隔が開いたところの区間を改善して利用客を延ばし、コストを抑えながら全てのネットワークが使えるようにする必要もある。

【公共交通を分かりやすく「見せる」】

- ・複数の事業者を戦わせたままだと市民にとっては非常に使い勝手が悪いものになるため、各事業者で協力し、時間や路線、バス停名などを利用者目線で分かりやすく「見せる」ための検討が大切である。この考え方は、那覇でも適応できると思う。

【「地域発」で公共交通を考える】

- ・地域住民自らがサービス水準を考えることや、誇りを持てる公共交通の「現場」づくりも大事です。

【公共交通の「協議会」をどう活用するか？】

- ・公共交通会議は交通の導入や変更がある時だけ開催するのでは意味がないため、市域全体の地域公共交通をマネジメントする場として活用していただきたい。
- ・また、地域公共交通確保維持改善事業では、陸上と海上を事業ごとに計画を策定しなければならないため、地域公共交通総合連携計画という全体計画を策定し、それを基に地域公共交通確保維持改善事業のそれぞれの個別の計画を策定していくという2層制の計画策定をお勧めする。

【さいごに～自治体・協議会に向けて～】

- ・地域公共交通に存在感を出すため、どんどん提案をしていかなければいけない。その力を事業者も行政も高める必要があるし、市民も目を養っていく必要がある。
- ・三位一体で地域公共交通を改善し、今後おでかけをどう守っていくのかということを考えるきっかけにいただければと思う。